三重

中南勢　四日市　津

情報をお寄せ下さい
津支局　〒514-0009
津市羽所町388　津三交ビルディング3階　059-225-4321
FAX059-223-0238
メール tsu@yomiuri.com
四日市支局　059-352-6685
FAX059-351-8738
通信部
鈴鹿　059-392-7084
松阪　0598-20-9516
伊勢　0596-28-2472
鳥羽　0599-25-5161
尾鷲　0597-22-7950
熊野　0597-85-2616
ホームページ
www.yomiuri.co.jp/local/chubu/
社会グループ　052-211-1151
読者相談　052-211-1009
販売部　052-211-0037

購読は 0120-4343-81
中部連合読売会
【広告申し込み】
読売エージェンシー東海
052-204-1361
【折り込み申し込み】
読売ＩＳ　052-461-1251

5月12日（日曜日）
旧　4月5日＜友引＞
月齢 4.0
（正午）

■ あすの暦

津・鳥羽		名古屋
4.53	日出	4.51
18.48	日入	18.47
7.58	月出	7.54
23.19	月入	23.18
7.27	満潮	7.29
21.33		21.23
2.01	干潮	1.58
14.39		14.39
（中潮）		

ウクライナの平和 訴え

「ウクライナに愛と平和を」への参加を呼びかけるメンバーら（名張市役所で）

きょう名張でイベント
スピーチ 手作り品販売

ロシアのウクライナ侵略に抗議し、平和を訴えるイベント「2024ピースナインフェスタ　ウクライナに愛と平和を」が11日、名張市の美旗市民センターで開かれる。在住ウクライナ人の女性3人が祖国の窮状を訴え、アクセサリーなどの手作り品を販売する。

市民団体「なばり9条の会」が主催。昨年と同じく鈴鹿市の柏谷オーリャさん(42)、山本ハリナさん(37)、愛知県津島市の増田ユリヤさん(38)を招く。

同会世話人代表の川合一葉さん(80)によると、オーリャさんは、祖国の母から電話で近況を聞いており、「日に何度も空襲警報が鳴り、避難している。脚が不自由な母が心配です」と、涙ながらに話したという。

午後1時半～4時。資料代800円、高校生以下無料。3人がスピーチしたり、ウクライナ民謡などを歌ったりする。会場に募金箱を置くほか、手作り品の売上金もウクライナ支援に充てられる。

冠水を警戒 道路調査

尾鷲署と市職員 梅雨を前に

道路の高架下を歩きながら確認する関係者（10日、尾鷲市で）

雨の多くなる季節を前に、尾鷲署などは10日、尾鷲市内で道路の冠水が予想される場所を訪れ、現地の状況を調べた。

東紀州は雨が多く、市内では例年、川沿いの道路などが増水で冠水することが少なくない。

この日は、尾鷲署や尾鷲市の職員約10人が、尾鷲市小川東町の市道を調査した。市によると、2008年、車が水につかって動けなくなったことがあるという。けが人はなかった。

職員らは、当時の冠水が予想される場所を訪れ、現地の状況を調べた。

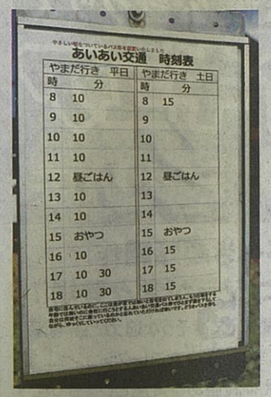
「バス来ないバス停」安らぎ

認知症患者 見守る

明和の介護事業所

行方不明防止 交流の場に

認知症患者らの支援にあたるケアマネジャーが、バス停を模した看板とベンチを明和町に設置した。外出した患者が見知らぬ場所に行き、行方不明になるのを防ぐ狙いだ。「バスの来ないバス停」に座っている人がいれば、地域の人が声をかけて見守ろうという取り組みで、欧州で始まり、国内でも注目されつつある。（松岡樹、写真も）



右 バス停に取り付けられた時刻表
左 「バス停」を訪れた高齢者と話す中村さん（上）（4月、明和町で）

エープリルフールの4月1日、明和町明星で介護事業所を営むケアマネジャーの中村英登さん(52)が、道路に面した自宅兼事務所に、疑似「バス停」を設置した。看板は、趣旨に賛同した県内のバス事業者から譲り受けた。

時刻表には、12時に「昼ごはん」、15時に「おやつ」と記され、「まずは腰を下ろして、ゆっくりしていって下さい」との文言もあり、本物のバス停ではないことが分かる。

認知症患者の中には、自宅で生活していても「家族のいる自宅に帰りたい」と思い込んだり、「仕事に行かなければ」と感じたりして、長年の習慣でバス停に向かい、遠くへ行ってしまうケースがある。外出した後、自分が何をしたかったのか忘れてしまう人が多いという。

中村さんの事務所にも、認知症患者が「仕事に行くために自転車を貸してほしい」と訪ねてきたことがある。どうすれば地域で患者を見守ることができるか、ずっと考えてきた。

「バスの来ないバス停」は、ベンチに座って心を落ち着かせる効果が期待される。気付いた人が連絡し、行政機関や家族などが迎えに行くこともできる。

4月10日には、中村さんが、近くの女性2人を「バス停」に招いた。お互いに「バスは来ない」ことを知っていながら「いい天気ですね」「どこに行きたいですか」などと語り合った。中村さんは「まずは、たちが気軽に、交流の場所になれば」と、ベンチの上で、「長時間、座っている人がいれば、声をかけてほしい」と話している。いくらバスは来ないが、認知症患者のための「優しい場所」がまってほしいとの。

不明1万8709人 10年で倍

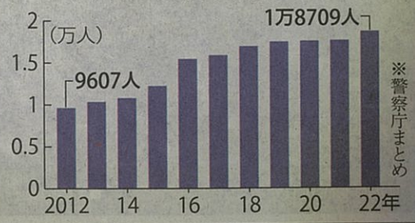
認知症によるものとみられる行方不明者は年々、増えている。警察庁のまとめでは、2022年は1万8709人で、過去最多だった。12年（9607人）から10年間で約2倍に増えた。行方不明者のうち、491人は死亡が確認された。

「バスの来ないバス停」と呼ばれる取り組みは、ドイツの老人介護施設で考案され、欧州を中心に広まったとされる。

愛知県豊橋市のNPO法人「ぽかぽかの森」は21年に、認知症をテーマにしたカフェの敷地内に設置した。バス事業者の協力も得て市内のグループホームに取り組みは広がり、全国の介護事業者などからの問い合わせも増えた。福岡県などでも同様の試みが始まっているという。

徘徊している認知症患者は、帰るように促されても、すぐに聞き入れないこともある。ぽかぽかの森の杉野友香理事長は「『認知症患者の考えを否定しない』という関わり方を幅広い世代に伝えるきっかけとして効果を上げている」と話している。

認知症の行方不明者の推移



※警察庁まとめ

県の政策

来年度

県は、2025年度の予算について、一般公募でアイデアを募集する取り組みを始めた。採用したアイデアは、25年度予算に費を計上する予定。あたり1000万円を想定している。

年齢・住所を問わず、でも応募できる（法人などを除く）。期日まで受け付ける。

募集内容は、テーマ、ないけない「自由提案」の課題などに関する

履歴書を改

看護師を懲

松阪市は10日、医師などを改ざんして基準

天気